



かみ
こじよ

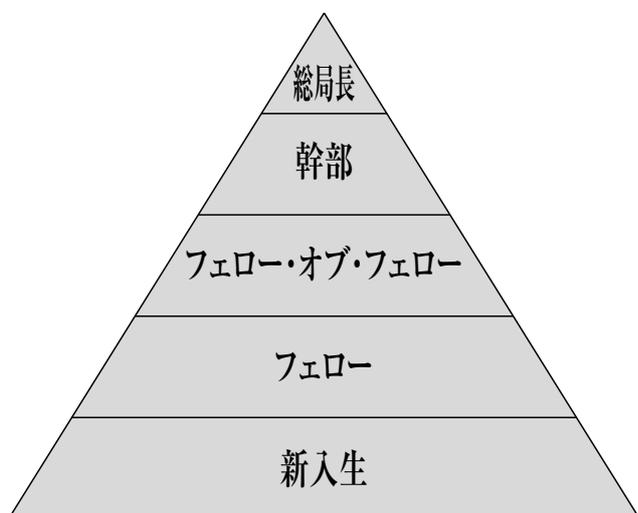


直抵抗がありました。当時の西条はアルバイトやご飯を食べる店も少なかったので、東千田町に比べて不便でした。慣れ親しんだ東千田町から西条に移転するのは、すごく淋しかったのを覚えています。移転の作業もとても大変でした。研究室の膨大な資料を運ぶわけですからね。引越し用のトラックの第1号出発式までありました。現在のようにインフラも整備もされておらず、ドロドロの駐車場をみんなで長靴を履いて校舎に入ったものです。

オリキャンに関して

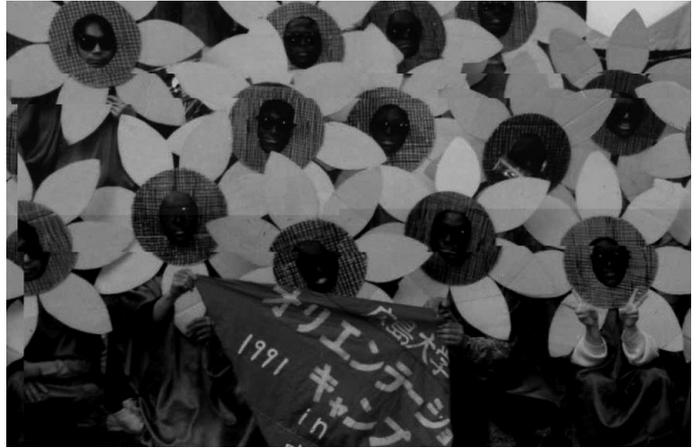
私は2年生でフェローを、3年生でフェローにキャンプ技術やレクリエーション施策を指導するフェロー・オブ・フェローという役割を担当しました。当時は「全学オリキャン」といって、大学の全学部が合同でオリキャンをやっていたのです。広島港から船を借りて2000人規模のキャンプを宮島で行っていました。運営は非常に組織的で、イベント企画を担当する事務局、PR活動を担当する広報局、また、ゴミの片づけや毛布の配付などライフライン全般の運営を担当する統制管理局など、役割を挙げたらきりがありません。各班が趣向を凝らしたコスチュームを着て、

キャンプファイヤーで歌ったり踊ったり、打ち上げ花火も上がっていましたね。私が4年生になる時、周囲の人からは「次の総局長（代表）はお前だ」と言われていたのですが、総科の教官や事務の方々と相談を重ね、全学オリキャンをやめて総科だけのオリキャンを実施することを提案しました。私は2000人規模でやるオリキャンに物理的な限界を感じていたからです。それほど人数だと参加者全体を安全面などで管理することに重きが置かれ、キャンプそのものを楽しめなくなっていたのです。もちろん、二十数年も続いていた全学オリキャンに終止符を打った訳で



▲当時のオリキャンの組織図

すから、先輩方から「残念だ、淋しい」との声を多く聞きました。しかし、私には信頼できる仲間も多くいたし、教官や事務の方々も一緒に考えていただいたので、総科は総科だけで最高のオリキャンを作れるという自信がありました。毎年夏に1000人の規模で「総科キャンプ」という純粋にキャンプを楽しむ企画をやっていたというのも実現化の理由に挙げられます。また、当時は「総科ソフボール大会」も実施していました。これは1年生から4年生に限らず、OBやOG、教官や事務官も合わせて30チームぐらいで盛り上がっていました。このように、いろいろな経験を経て私は4年生の時には総科だけのオリキャンの実行委員長を務めました。全学から学部毎のオリキャンへの過渡期をつなぐ役目でした。総科は実施できたけれど、他学部は実施できなかったところもありました。私はオリキャンや学部行事などを通して、人との付き合い方や、調整の仕方、リーダーシップの発揮の仕方を学びました。私の信念は、「自分も楽しめて、みんなも楽しめることをしたい!!」ということです。このことは今の仕事にも十分に役立っています。



上小城さんが1年生の時のオリキャンの様子

総合科学部が好きになった理由
 一年生のときの裏ガイドンスや新入生歓迎会で、先輩たちの歓迎ぶりに大きな衝撃を受けました。当時の新歓コンパはホテルの立食パーティーで行われていましたし、裏ガイドンスでは、趣向を凝らしたコントまでありました。その時「総科ってすごくパワーがあつておもしろい！」と強く感じましたよ。「来年は自分たちがやるんだ」という気持ちが強くなりましたね。2年生のときに新歓コンパで、新入生の中に先輩が紛れ込んでいる「0

2生は誰だ!？」という新たな企画をやったのですが、話によると現在は「化け」という名前で残っていると聞き、とても嬉しく思います。そういえば、ウォームファージも私達のメンバーが提案したものののです。当時の様子はたくさん写真やビデオカメラで記録してあるので、今でもたまに02生で集まるとみんなで懐かしく見たりしています。この前の02生の同窓会では180人中80人が参加してとても盛り上がりました。卒業して10年経った今でも02生同士の交流は続いていますよ。

学生へ一言

「よく遊び、よく学べ!!」これは私が一年生の時、当時の天野学部長がガイドンスでおっしゃった言葉です。あの時の衝撃は忘れられませんね。総科はいろんな考えを持つ人たちと交流ができ、バランス感覚を養うことができる学部です。だから、『たこつぼ』のように特定の仲良しグループの中に収まっているのではなく、他の集団とのふれあいも大切にしてください。せっかく大勢の人がいるのですから。現在の学生さんは交流の輪が小さくなってきているようにも感じます。何かみんなで大きなことをやってみてはどうでしょう。

ようか。きつとかげがえのない思い出となることでしょう。皆さんがよりよい大学生活を送ることができることをOBとして祈っています。

脱たこつぼ
 (byまっぺ・しお・みくりん)



(担当 15生 御厨由香)

「椿」 眞さん



平成元年入学 物質生命科学コース
平成6年度 生物圏科学研究科 環境計画科学専攻修了
テンパール工業株式会社
技術本部 開発部 東京研究所主任

仕事内容

テンパール工業株式会社という、安全プレーカーといった電気安全の装置を作っている会社に勤めています。はじめは広島の開発部で製品開発をしていたのですが、現在は東京研究所で、電気安全に関する研究を行っています。この仕事を始めようとしたきっかけは、学生時代に電気を流す高分子の研究をしていたので、電気関係の仕事に興味があったからです。私が就職活動していたときがバブル崩壊の直前で、就職難だった時期でした。その

ため広島での就職は厳しかったのですが、夏までには現在の会社に就職を決めることができました。

現在、産業安全研究所に出向して電気安全に関する研究をしています。他にも大学との共同研究なども行っています。研究以外にも営業部の支援も行ったりしています。お客様からの問い合わせ内容によっては、営業マンと商品の技術的な説明に伺うこともありま。あと、二年前に技術士の情報工学部門の一次試験に合格し、現在広大工学部の先輩の技術士に指導を受けながら、技術士の資格の取得を目指しています。

楽しい事は何ですか

プライベートな面では、もともと神社仏閣を訪れるのが好きなので、暇をみつけては、日光東照宮とか鶴岡八幡宮などいろいろ行くのも楽しかったです。仕事面では、研究している時に新しい発見が出たときです。その原因を追及したり、理論的に解析し、まとめるのは大変ですが、それが終わって研究に関連する特許が登録されたり論文の査読が通って掲載されたときが、研究者として一番うれい

当時のオリキャンの様子を教えてください

私たちの頃は、全学部一斉に宮島でやっていました。オリキャン前から、班ごとにコスチュームを作ったり、ダンスの練習をしたり、職を作ったりと、いろんな準備をしていました。一年生の始めの授業は一般教養ばかりだったので、コスチュームを作りながら授業を聞いたりもしていました(笑)。時々ダンスの練習を吉島公園(移転前のキャンパスの近く)で練習していました。自分たちで自主的にやっていたからこそ逆に頑張っていたんじゃないかな。オリキャンはとにかく楽しかったです。

校舎が移転したときの様子は？

私が4年から大学院に上がるときにちょうど校舎が移転したんです。だからその年は卒業の提出締め切りが早まって12月の中頃くらいになりました。あとの3ヶ月は西条に荷物を持っていく作業をしていました。私は理系の研究室に入っていたので、実験装置などの移動準備が大変でした。装置を千田で分解・梱包し、西条でまた開封・セッティングするって感じでした。結局、研究室の実験器具はもちろん、自分が実験に使う装置の立ち上げは、4月に入っても続いていました。

卒論のテーマは？

導電性高分子の物性研究だったと思います。普通、プラスチックなどの有機物は電気を通さないけれど、酸やアルカリを用いて合成したり何らかの処理をすると、電気を通しやすくなります。その性質を示すメカニズムについて、いろいろな実験を行って調べていました。実験は電子スピン共鳴（ESR）装置を使って導電性高分子の電子構造を調べたり、帯磁率（磁石を近づけてどれくらい引きつけられるか。）や、電気抵抗を測定して、電気的性質と磁気的性質の関連を調べたりしました。

サークルやアルバイトはしていましたか。またそこで得たものは何ですか

サークルは高校時代からやっていたマンドリンクラブに入りました。そこで得たものはたくさんあります。日々の活動や合宿を通して規律正しく生活する事を学んだし、先輩からの指導により、後輩への指導の方法や、敬語の使い方などを教わったので、社会に入ったときにも役に立ちました。

総科でよかったと思うことはありますか

私は理系のいろいろなことに興味があった

ので、それを自由に勉強できたのがよかったです。理学部とか文学部とかでは、あらかじめ決められた科目を勉強するようにカリキュラムが組まれています。総科ではある程度自分の核、と言っか、専門になるものを勉強しておいて、その他は自分の好きな勉強ができます。昔は総科でも国、数、理、社、英の教員免許が取得できていました。私も理科の教員免許をとるために、物理、化学、生物、地学全部を必死になって勉強したんです。そのとき学んだことが社会に出た今、知識として役立つています。例えばバイオインフォマティクスやナノテクノロジーとか今話題になっているけど、それらは理科を中心とする様々な分野が融合してできたものなので、それに対する理解度は他の何もやっていない人よりは大きいと思います。そういう事は他学部ではできないので総科に入ってよかったと思います。

学生時代やり残したことはありますか

もう少し電気に関する基礎学力を付けておけばよかったと思います。私が学生時代に専門的にやっていたのは電気を流す「物質」や「素材」などの原子レベルのミクロな研究ですが、今研究しているのはそれとは違いもつ

とマクロな意味での電気系なのです。やはり専門と異なる分野なので、会社に入らたての頃は電気の知識の習得に追われていたので、もつと電気についても勉強しておけばよかったと思いました。



貴重なお話をみんな真剣に聴いています。

椿さんはとても勉強熱心な学生だったそうです。

総合科学部で学んだことは今の仕事に役立っていますか

大学で勉強したことが直接役立ったことはあまりないのですが、あえて挙げれば、例えば実験の仕方や実験の結果の解析方法などの、問題を解決する「手法」です。あとはそれに行き着くまでに知っておかないといけない基礎的な知識や、研究する時の姿勢などそんなものです。普通は、大学で学んだことが直接仕事に役立つという例は本当に少ないと思います。

総合科学部を卒業した椿さんと他学部卒業生との違いを感じますか

他学部を卒業した人よりは視野は大分広いと思います。会社には機械、電気など限られた分野に精通した人はいるのですが、幅広い知識をもった人は非常に限られます。幅広い知識があれば総合力を身につけるのにも役立ちます。逆に常にいろんな社会の情勢などを知っておくために、日々勉強しなければいけないって言うのもありますけどね。

現在の総合科学部生に一言

大学で身につく専門性と言つのは本当に少しです。それよりも社会に入って身につけて

いく事の方が断然多いです。それは総科でも他学部でも変わりません。だから学生の時は専門性に囚われずにいろんなものに興味を示して貪欲に吸収していつてほしいです。聴きたいと思う講義があつたら、他学部の講義でも何でも聴きに行つた方が絶対がいいと思います。私は空きコマがあれば理学部の共通科目などをとっていました。全部で200単位ぐらいとっていたかな。社会人になったら、講義が聴きたいと思つても、なかなか難しくなります。私は今創業サポートセンター主催の大学の公開講座のようなものを週に一回位聴講しています。学生も忙しいかもしれませんが、いろんな講義を聴いて広い知見をもつた人に育つてほしいです。そのような人を育てる事が総合科学部の理念だと思います。



大学在学中、200単位以上もとっていたという椿さん。とてもまじめな方だったのでしょう。すばらしい！！

最近気になっていること

最近の社会は人情味がなくなってきたなと思います。特に東京へ行くと、隣に住んでいる人も誰かわからないってかんじで、人との繋がりがない気がします。今後うまく社会がやっていけるのかな。個人主義がだんだんと色濃くなっているけど、学生も自分の主張ばかりするのではなくって、他人の話もよく聞きましょう。ある程度の社会的マナーができて、周りに注意を払えるような人が増えてほしいと思います。

(担当 15生 山下智津子)



最後に全員でパチリ
椿さん、本当にありがとうございました。